

市政会視察報告書

池田滋彦

平成29年5月18日・19日

視察先 5月18日(木) 埼玉県入間市
5月19日(木) 東京都西東京市

1日目、 5月18日(木) 埼玉県入間市

調査目的 小中一貫教育について

入間市は東京都心から40km圏にあり武蔵野の面影を多分に残し自然環境に恵まれた住宅都市として発展、鎌倉時代からお茶の栽培が盛んで、狭山茶どころの生産地として知られている。人口14万人
第5次総合振興計画・後期基本計画がスタートし「まち」「ひと」「自然」が揃うことにより魅力あるまちづくりが基本方針としている。活力あふれる、利便性のよいまち、災害に強いまち、すべてにやさしいまち、優れた景観のあるまちづくりを推進している。

平成24年、25年埼玉県教育委員会委嘱「小中一貫教育推進モデル事業」として行っている。

平成22年度より小中交流を推進し、それを踏まえ、県、文科省の委託を受け取り組んでいる。授業を中心に学校、家庭、PTAや教育活動ボランティア・健全育成会等が一体となって子供たちに「生きる力」を育むために連携協力を深める。

狭山茶と触れ合う教育、総合的な学習の時間に「お点前」の学習も行っている

小中9年間の学びや育ちのつながりを重視した教育の実践、学習のつながり

学習内容をつなぐ 「単元のつながりを意識した指導」

指導をつなぐ 「学習規律、始業、就業の礼、発表の仕方、時刻を守る」

「学習の流れ、学習課題の提示」

乗り入れ指導 「授業サポート、出前授業」「個別支援」

小学校教員による授業サポート 中1・2の数学、中1体育、音楽へ小学校教員がサポート。

中学校教員による出前授業 小6を中心に算数、社会、英語活動、体育の出前授業を行っている。小中合同授業、中学体験授業 合同研修会

成果 小6にとって中学校教員や中学生と接する機会が多かったことで、不安が大いに解消され中学へのギャップ解消に大きな効果がある。

小中お互いの教員が、授業を見合ったことで、学習の進め方で良い所を取り入れることができたり、系統性について視野を広げたりすることができ、小学校の学習内容を確実に定着させて中学校に進学させる大切さを再認識した。

視察授業では内容についてやはり先生方の力量が第一と考える。

先生が問題意識を持って子供たちに接する。また子供たちは日常生活の大切さを学んでいると思う。

先生のモチベーションは相互の立場を理解し研修も行う、大切なことと思う

ここはボランティア人材が豊富であることと保護者の理解が良いとのこと

私が質問したのはこれにより先生方個々の負担が大きくなるか問うと

カリキュラム、スケジュールがくまれているので負担にはならない、かえって気分

転換も考えられるし個々の教員が勉強している、しかしながらここまで来るのに理解し行動なされるまで5年はかかっている、授業だけでなくイベントや行事、部活動体験、まつり交流などで理解を深め地域全体で行われている、と、答弁最後に事の発端は

学校生活の荒れ、先生の資質向上のため取り組んだ結果現在は不登校ゼロ、子供たちの授業成績も上がった結果が出ている。知立市も参考になるところは検証したい。素晴らしい山あり樹木あり敷地も広く良い環境が子供たちの成長を後押ししてると感じました。

2日目 5月19日(金) 東京都西東京市

調査目的 下野谷遺跡公園 視察

西東京市は田無市、保谷市が01年に合併してきた市である

江戸時代から青梅街道の宿場町、北多摩地区の商業の拠点として発展してきた田無市と、幕府の開墾対策の一環で新田開発された農村からベットタウンとして発展してきた保谷市の組み合わせ。都市型対等合併の先駆けである。

合併時の重点施策である、合併記念公園「憩いの森公園」の整備、合併後も工場跡地の宅地開発などで人口増加。一方で「健康都市宣言」や「文化振興計画」の策定など、住宅都市から生活文化都市への転換を図る。地域の自主自立と独自性を発揮できるよう取り組んでいる

遺跡の概要は西東京市二丁目、三丁目、六丁目地内に所存する縄文時代中期の環状集落であり、南関東で傑出した規模と内容を誇る者である。集落には、土坑（お墓と考える穴）群などが並ぶ形で構成されており、縄文時代中期の典型的な「環状集落」という構造をしている。さらにこういった環状集落が谷を挟んで複数存在しており「双環状集落」と呼ばれる拠点的な集落の特徴がある。遺跡の今後の保存方法は具体的に示されておらず国指定であるため取り扱いが難しいとのこと。

これまでの発掘調査は畑の耕作などの際に縄文土器のかけらなどが多く見つかかり昭和25年に考古学者の吉田格氏により「坂上遺跡」という名称で、文献上初めて紹介されました。その後、昭和48年から本格的な発掘が実施され、昭和50年度には旧字名をとり「下野谷遺跡」と名称変更されました。調査では、旧石器時代から縄文時代後期にかけての遺跡や遺物が出土していますが、特に縄文時代中期の縄文土器や石器が多く出土しています。

遺跡に対する市民の皆さんの関心が高まり、平成19年には下野谷遺跡保護のため一部公有地とし、下野谷遺跡公園を開園している。都市化の進んだ市街地に縄文時代の集落がほぼ残されているのは非常にまれであるといわれます。

現地に案内していただきましたが膨大な土地が公園とはいえ草ぼうぼうで本当に開発されるのかどうかわかりませんでした。私は、知立市の遺跡に参考にならないと感じました。遺跡の保存は難しいとも感じました。